

昨年6月30日に創立総会を開催して日本フンボルト協会が発足してから1年が経過しました。この間、常務理事会を3回開催し（2013年8月2日、11月3日、2014年3月7日）、協会の運営について協議を重ね、必要な方針を定めて活動を進めてきました。以下にその内容を整理してご報告をいたします。なお、常務理事会の審議内容は、その都度ホームページの会員サイトでニュースとしてお知らせし、議事録を会員サイトの資料館にアップしていますのでご参照ください。

1. 創立総会について

- ・総会には約120名のHumboldtianerInnenが出席しました。当日の総経費は参加費およびフンボルト財団からの財政支援でまかない、足りない分を協会の通常会計から支出しました。
- ・留学説明会には95名の参加者がありました。その後、参加者についてアンケート調査を行い（回答者41名、内訳・文科系25名、理科系16名）、集計結果はまとめてホームページに掲載しました。

2. 協会の運営機関について

- (1) 会員総会は年に一度定期的に開催し、開催場所は大きな支部の持ち回りで設営します。会員総会に際しては、留学説明会をあわせて行ない、学術講演会などを企画します。
- (2) 常務理事会は年3回程度開催し、開催場所は交互に東京と京都とし、必要に応じてSkypeの利用も図ります。
- (3) 理事会は、原則として年1回会員総会の前に開催し、常務理事会の会務報告および総会提出議題について審議決定します。役員選考の年度については、会員総会直後にも開催し、理事長、副理事長および常務理事の選任を行います。
- (4) 支部活動全体の推進を図るために、常務理事・支部長合同会議を適宜に開催します。

3. 支部活動について

- ・全国7つの支部（北海道、東北、関東甲信越、中部、関西、中四国、九州）は、支部会員リストを整備して活動を開始しています。中部支部、関東支部では支部会員総会が開催され、関西支部も準備を進めています。中部支部は独自のホームページを立ち上げ（協会ホームページにリンク）、関西支部も協会のホームページに支部用のページを設けることとなり、コンテンツを検討中です。その他の支部も支部長のところで活動の具体化を図っています。
- ・支部活動の助成のために協会の予算から一定額を支部の活動費として支出することにしています。その際には、支部から支部の活動計画と支出計画を作成の上、申請することにしています。

4. 大学別連絡責任者の設置

- ・5人以上のHumboldtianerInnenが在職する大学ないし研究機関には大学別連絡責任者をおきます（5人未満のところでも、連絡責任者をおくことは可能です）。名誉教授も在職メンバーとしてカウントしますが、現職がある場合は現在の大学の所属とします。大学別連絡責任者は、当該大学HumboldtianerInnenの代表者として協会の活動を促進する役割を担います。大学別連絡責任者は、理事または評議員が兼ねることを原則としつつ、各支部で相談の上決定します。関東甲信越支部、関西支部、中部支部では、ほぼ確定しています。大学別連絡責任者が最終的に決定しましたら、総会にリストを提出し、ホームページにアップします。

5. ホームページの運営について

- ・ホームページの管理運営のためにHP委員会を設置しました。メンバーは以下の通りです。

委員長：鏑田常務理事、委員：小林直人会員（四国支部）高山佳奈子理事（関西支部）、高橋義人常務理事（関西支部）、種村眞幸理事（中部支部）および西原博史理事（関東支部）

- ・ホームページは、協会からの社会的発信の窓口であると同時に、会員相互のコミュニケーションの手段、有益な情報の伝達手段として活用します。また、本会の活動以外にも会員による日独学術交流を積極的に社会に発信する方針です。会員が中心となった学術企画やドイツとの学術交流活動の紹介や報告など会員からの積極的な投稿および情報提供を期待しています。HP委員会の判断を経て公開サイトの「おしらせ」および「日独学術交流雑記帳」のページに掲載いたします。また、研究交流の呼びかけやテーマについての議論（会員サイト「フォーラム」）などをお寄せください。
- ・HP委員会は、コンテンツの充実にはできるだけ多くの会員にコミットしていただくことが重要であり、そのためにHP委員会の陣容を強化し、アンテナを広げたいと考えています。委員について会員からの自薦・他薦をよろしく願います。

6. ドイツ留学情報検索サイトについて

- ・留学情報検索サイトの運営は、新協会の目玉の活動として「世代間交流」を広げ、ドイツ留学者を増やしてドイツとの学術交流を一層発展させる重要な手段です。会員の御協力により、登録者数は **Humboldtianer** が約 200 名、ドイツ人研究者が約 300 名という状況になり、2014 年 4 月 1 日から供用を開始しました。できるだけ多数の会員に登録をしていただくことが重要なので、未登録の会員には引き続きよろしく願います。事務局で登録代行もいたしますのでお尋ねください。
- ・登録された会員には、ドイツ留学を志望する若手研究者から留学情報検索サイトを介して相談のメールが届くことがあります。その際は事情の許す限りご対応をよろしく願います。ご不明のことがあれば、事務局にお尋ねください。

7. 名誉会員制度の運用について

- ・会則では「名誉会員制度」を設けていますが（第 6 条 3 項「日独学術交流に著しい貢献のあった者（外国人を含む）は、理事会の推薦により、総会の決議をもって名誉会員とすることができる。」）、名誉会員制度については、東西がまったく異なった運用をしてきたという事情があり、また、新協会発足時の暫定処理も不明確であったので、新協会における新規マターとして、会員制度全体を見渡しながら（一般会員の規定の検討、特別会員制度の新設等を含んで）時間をかけて検討することとし、来年 2015 年の会員総会に具体案を提案することにいたします。

8. 東アジアの国際交流について

- ・東アジア、具体的に韓国、中国および台湾の **HumboldtianerInnen** との交流については、創立総会に韓国フンボルト協会の Lee 会長をお招きし、また、2013 年 9 月には中国の **HumboldtianerInnen** によって上海で開催された **Humboldt-Kolleg** に招待を受け、理事長の代理として鏑田常務理事が出席し、これらの機会を通じて国際的に具体的なあり方の協議を継続しています。取組みの 1 つとして来年の会員総会に韓国、中国、台湾の **HumboldtianerInnen** 代表を招待することを検討することとしました。

9. 協会の財政について

- ・予算制度を導入し、計画的な財政運営を図ります。現在、事務局で把握している会員は総計 1701 名です。事務局経費や支部活動費等をきちんとまかなうためには会費の納入率をどんなに悪くても 50%以上とすることが必要です。会員のみなさまの御協力をよろしく願います。